

ユネスコスクールを活用したグローバル社会を生き抜く生徒の育成に向けて
～ユネスコスクールテーマおよびE S D を位置着けた教育活動～

札幌市立手稲西中学校 校長 清水 禎 一

担当者 校長 清水 禎 一

校務分掌での担当者：生徒会福祉局担当 教諭 市 橋 麻 衣

1 趣旨 本校のE S Dの特徴

“Think Globally, Act Locally”

ユネスコスクールとして、ユネスコ憲章「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」の精神にのっとり、1 地球規模の問題の理解 2 福祉・人権教育 3 異文化理解 4 環境教育をテーマに教育活動をしています。本校は1963年からJ R C(青少年赤十字)に加盟、それをもとにユネスコスクールに2010年7月9日加盟した。活動は、教育課程の中で教科、道徳、生徒会活動、総合的な学習の時間の授業などに位置付け、世界との「つながり」や「かかわり」を意識していくことを大切にし、地域で行動・実践していこうとしている。

2 活動・全体計画

(1)教育課程に位置付いた各領域ごとの活動

<p>■教科</p> <ul style="list-style-type: none">○家庭科3学年では、手稲区の保健福祉部健康・子ども課の次世代育成支援事業と連携して幼児とのふれあいの授業で「赤ちゃんや幼児とその親に 来校してもらい生徒とのふれあいの場を設ける(年間2回)」、直に赤ちゃんに接することにより、命の重みを実感し、人権などを考えるきっかけの授業をしている。(毎年)○家庭科の1学年と3学年では、N P O法人日本時代衣装文化保存会(小林豊子きもの学院) の支援を受け、日本文化の伝統にふれる「和装着付け」の授業をし、異文化を理解するためには先ず自国の文化を理解する授業をしている。(毎年)○技術科2学年では、エアドゥーのパイロット、キャビンアテンダント、整備士を外部講師として招聘し、「航空教室」で海外の事情とキャリア教育を織り交ぜた授業をしている。○技術科2学年では、「異文化理解と他国のネット事情・モラル」で札幌国際プラザ外国人交流員(札幌の姉妹都市ドイツ：ミュンヘン市、韓国：大田広域市)を外部講師として招聘し情報教育の授業をした。(平成27年度)○保健体育科2学年では、「中国と韓国の外部講師から母国語で自国の子どもの遊びの紹介」で札幌国際プラザ外国人交流員(札幌の姉妹都市中国：瀋陽市、韓国：大田広域市)を外部講師として招聘しその国の遊びや体ほぐし運動の授業をした。(平成28年度 札幌国際理解教育研究会札幌市立西宮の沢小学校にて)
<ul style="list-style-type: none">○3学年理科では「自校太陽光パネルのしくみ」「放射線の遮蔽」の授業をしました。○3学年技術科では「自校太陽光パネルの発電効率」の授業をした。(いずれも平成27年度)
<p>■道徳</p> <ul style="list-style-type: none">○1学年道徳では「内容項目4(10)の国際理解・平和」に関連して「途上国の子どもの現状」でユニセフ協会事務局長を外部講師として招聘し授業をした。(平成24年度)
<p>■総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none">○1学年「環境・自然(問題)」2学年「職業・くらし」3学年「福祉・社会保障・国際理解」をテーマに、個人個人が、調査活動や体験活動を1日日程で校外での追究学の実践も行い、報告レポートの作成、研究発表会等を行っている。
<p>■特別活動</p> <ul style="list-style-type: none">○生徒会の福祉局を中心にエコキャップ運動・リングプル回収運動・地域草むしり・東日本大震災で被災された皆様への募金活動など実践的な活動を行っている。○学校祭で、校区「手稲養護学校」の生徒(車いす、知的障害)と老人ホーム神愛園「星置ハイツ」のお年寄りをお招きし、全校生徒とのふれあいのステージ「ようこそ西中へ」を実践。また、2月には、手稲養護学校にも生徒会執行部と福祉局が手稲養護学校へ訪問し、一緒に両校の交流活動を進めている。

(2)ユネスコスクールテーマを位置づけた各学期の活動計画

ユネスコスクールテーマ I 地球規模の問題に対する国連システムの理解、II 人権・民主主義の理解と促進
III 異文化理解、IV 環境教育 ○内の数字は時間数

【1学期】

教科	3 学年家庭科「赤ちゃん・幼児との交流」事前Ⅱ① 1 学年技術科「航空教室」Ⅳ①
特別活動	全学年対象 生徒会福祉局主導(年間活動) エコキャップ・リングプル回収運動ⅡⅣ 草刈ボランティア・ゴミ拾い運動Ⅳ 震災募金活動 1 回目 Ⅱ

【2学期】

教科	3 学年理科「自校太陽光パネルのしくみ」Ⅳ① 3 学年理科「放射線の遮蔽」Ⅳ① 3 学年技術科「自校太陽光パネル発電効率」Ⅳ① 3 学年家庭科 「赤ちゃん・幼児との交流」1 回目Ⅱ① 2 学年技術科「異文化理解と他国のネット事情・モラル」Ⅲ① 2 学年保健体育科「中国と韓国の外部講師から母国語で自国の子どもの遊びの紹介」Ⅲ①
道徳	1 年内容項目 4(10)国際理解・平和 「途上国の子どもの現状」Ⅰ①

総合的な学習の時間	1 年生テーマ環境 1 年生「マテック石狩支店リサイクル自動車工場とフードリサイクル工場定山溪環生舎見学調査」Ⅳ⑥ 3 年生テーマ「国際理解・福祉」 3 年生の半数「JICA 札幌での見学調査」ⅠⅢ⑥ 3 年生の半数「日本赤十字札幌支社での調査」ⅠⅢ⑥
-----------	--

特別活動	全学年対象 生徒会福祉局主導(年間活動)「エコキャップ・リングプル回収運動」ⅡⅣ 「歳末たすけあい募金活動」Ⅱ 全学年対象 生徒会福祉局担当 「学校祭」ステージ発表 ようこそ西中へⅡ⑥ ・エコキャップ・リングプル回収運動結果発表 ・手稲養護学校生徒との交流 ・特別養護老人ホーム星置ハイツ合唱サークルの発表を聞き、全校生徒で校歌紹介 全学年対象「雪かきボランティア」Ⅳ
------	--

【3学期】

教科	3 年家庭科「和装着付け教室(自国の文化)」Ⅲ② 3 年家庭科「赤ちゃん・幼児との交流」2 回目Ⅱ①
特別活動	全学年対象 生徒会福祉局主導(年間活動) 「エコキャップ・リングプル回収運動」ⅡⅣ 「東日本大震災募金活動 2 回目」Ⅱ 生徒会執行部・福祉局 「手稲養護学校訪問・交流会」Ⅱ②

3 活動事例

次にユネスコスクールのⅠ～Ⅳのテーマに絡ませながら、教育課程に盛り込んでいる教育活動の中から、その実践内容を紹介し、グローバル社会を生き抜く生徒の資質の育成とのつながりを報告する。

(1) 生徒会福祉局のJRC青少年赤十字活動

「アクトローカリー、行動化とコミュニケーション！」

ユネスコスクールテーマ II 人権・民主主義の理解と促進 IV環境教育

本校の特色として、生徒会の各種委員会の中に、福祉局が位置付けられている。ユネスコスクールにおいて、アクトローカリーの一端を全校生徒に投げかけ行動化の原動力となっている。福祉局では以下のような年間活動を進めている。



【年間活動内容】

「エコキャップ、リングプル回収運動」通年 II IV

「東日本大震災募金活動」年2回「歳末たすけあい募金活動」年1回 II

「夏休み草むしりボランティア」年1回 II IV

「冬休み雪かきボランティア」年1回 II IV、「地域の公園のゴミ拾いボランティア」 II IV

「手稲養護学校への訪問・交流会」生徒会執行部、福祉局両校生徒の交流 2月年1回 II

「学校祭 ステージ発表(ようこそ西中へ)」11月 年1回 リングプル回収およびエコキャップ回収結果の発表、および手稲養護学校生徒と近隣の特別養護老人ホーム星置ハイツ合唱サークルをお招きしての両団体の発表を聞き、全校生徒が校歌披露 II IV



上段：震災募金、草むしりボランティア、雪かきボランティア、手稲養護学校との交流、
下段：「ようこそ西中へ」

平成28年度の生徒会福祉局年間活動目標「A I L E N～あなたの幸せを願っています～」を設定し、人権や福祉に関する体験活動を通して、コミュニケーション能力などの資質を磨いる。ちなみに、エコキャップの年間回収量は10kg袋で10袋、リングプルは現在502,257gで目標まで残り7kgである。日常活動として環境教育への行動化が図られている。将来、人権、環境問題への行動の礎となりうる。

(2) 「赤ちゃん・幼児との交流」を取り入れ3学年家庭科の授業実践

「次世代の担い手としての意識の醸成！」

ユネスコスクールテーマ II 人権・民主主義の理解と促進

札幌市手稲区保健福祉部健康・子ども課の次世代育成支援事業の一環として行なっている。乳幼児とその親御さんと3学年の生徒たちが触れ合い、赤ちゃんとのコミュニケーションをとったり、親御さんから子育てを学んでいます。将来、親となる生徒たちにとって、子どもに触れる体験は、命の大切さや重みを実感し、次世代の担い手としての意識や資質の育成につながる。



(3) 「和装着付け教室」を取り入れた1学年、3学年家庭科の授業実践

「自国の文化を知ることは、異文化理解の礎！」

ユネスコスクールテーマ III 異文化理解

NPO法人日本時代衣裳文化保存会(小林豊子きもの学院北海道本部)伊藤豊美講師を外部講師に日本の礼儀作法や浴衣の着付けを学び、日本の伝統文化について生徒たちは理解を深めた。異文化理解のためには、自国の文化も理解すべきと考えた。伊藤講師は「着物は日本の民族衣裳であり、平安時代の十二単衣が始まり、一千年以上形が変わらず



いてきた日本の素晴らしい文化、また着物の素材である絹はカイコの命をもらってつくられている。ありがたいの気持ちを込めてたたむことが大切。自国や外国の人にもイメージアップできる。」と強調。

(4) 札幌国際プラザ姉妹都市外国人交流員招聘・活用した2学年技術科「異文化理解と他国のネット事情・モデル」の授業実践(平成27年度)

「身近な外国人と接する異文化理解！」

ユネスコスクールテーマ III 異文化理解 「札幌市教育委員会の平成27年度札幌市研究開発事業「国際理解に関する研究」の研究推進校の依頼の授業実

札幌市の姉妹都市ミュンヘン、大田広域市札幌国際プラザ交流員、ドイツ、ウリヤミツキ氏、韓国のソン氏に、コンピュータ室で、二人から自国語で自己紹介、気候風土、食文化、民族衣装、名物、若者の様子等、異文化の講話。生徒も大変興味深く学習した。ネッ



ト事情は今、ドイツは移民、難民を受け入れた国柄でネットトラブル、国全体のブームは無い。逆にネット先進国の韓国は携帯の普及率は110%で世界トップ。「男性アイドルとツーショットを撮った女性ファンがネットの誹謗中傷の炎上で自殺」とショッキングな話はあるが、LINEやSNSの既読、未読等からネットいじめに発展はしない等。生徒からの質問も多くとても楽しく有意義だった。今回は技術科に限定したが、どの教科でも、授業の目標に沿って、外国の事情も比較して外国人から直接、説明を受けることによってインパクトがあり大変興味を高めるスパイシーな授業、あるいは豊かで幅広く楽しい授業となった。

(5) 札幌国際プラザ姉妹都市外国人交流員招聘・活用した3学年保健体育科「体づくり運動(体力を高める運動)」の授業実践(平成28年度)

「身近な外国人と接する異文化理解!第2弾」

ユネスコスクールテーマ III 異文化理解 「札幌国際理解教育研究平成会 第32回(平成28年度)札幌国際理解教育研究大会公開授業の依頼を受けての授業実践」

札幌国際理解教育研究会の依頼により、西宮の沢小学校で2年生全生徒がバスで行き帰りして研究大会公開授業に臨んだ。授業は、本校保健体育科阿部先生指導の2年生保健体育「体づくり運動」を他校の先生方も参観。先ず「鬼ごっこ」をし、簡単な遊びでも、結構疲れる、持久力、瞬発力、調整力等体力を作る要素が鬼ごっこにも多いことに気づき、次に札幌国際プラザ姉妹都市外国人交流員中国の劉氏、韓国のソン氏から、



母国の鬼ごっこを母国語で紹介(1組中国、2組韓国)実際にやって、互いに習った鬼ごっこを生徒同士で説明。外国の遊びの中にも体力作りに大切な要素が多く入っていることに気づくという授業だった。《外国人講師ソン氏、劉氏の感想》母国語で説明したので、実際にやってみた時、ちょっと違ったところもあったけど、自分たちで討議して、最後には正確にできたことがすごい。ひじょうに活発。最初は母国語で伝わるか心配したけど、生徒たちの覚えようという意欲がすごいことが、よく伝わってきました。賢い生徒さんですね。

《生徒の感想》やることは分かったけど、その後出てきた問題点を聞くのが難しかった。教えてもらっている間にオルなど単語も分かってきた。国にはその国の文化ややり方があるが、意外と共通していることが分かった。この他、ロケにほとんどの生徒は授業がすごく面白かったと言って帰ってきた。

《先生方の感想》とても面白い授業で生徒もすごく楽しそう。生徒の素直な雰囲気感動。わからない言語に対して、真剣に聞き入る探求心が素晴らしい。鬼ごっこでも教材の質を高められる、深い学びになることを阿部先生と西中の生徒さんから教わった。西小卒業担任現西宮の沢小の先生も今回、別に授業公開しており、教え子の成長を強く感じたと話していた。

4 成果と課題

本校の生徒会福祉局が、ユネスコスクールとしても行っている、ペットボトル回収、募金活動を積極的に進めており、シンクグローバリー・アクトローカリーや世界との「つながり」や「かかわり」を意識する、国際理解につながる教育活動となっている。

3 年家庭科「和装着付け教室」の授業実践では、友だち同士で直し合い、真剣な姿勢で取り組み、生徒たちは「似合っているかしら」と照れながらも自分の着物姿に満足していた。日本文化を知り、日本人の誇りを感じ、自国の文化を説明できる人になり、昔から代々伝えられてきた日本文化を日常生活でも生かしてほしい。なお、これは例年行っているが、卒業生から「高校の学校祭で皆で浴衣姿になった。その時先頭に立って教えることができた。」とメッセージを寄せている。日本文化や日本人のアイデンティティを身に付けられる教育となる。

2年技術科「異文化理解と他国のネット事情・モラル」保健体育科「体づくり運動」の授業実践では、

外国人に講話は、異文化に触れ、自分の国のあり方、授業における生徒の興味関心を高め、それを原動力として、スパイシーで幅広く、豊かな授業構成となった。公益財団法人札幌国際プラザとの連携は札幌市と姉妹都市の友好の交流にもつながる。

■外部からの評価をいただくことも「ユネスコスクールの市民権」の獲得にもつながる!

○平成26年度「小さき親切」実行事業賞 ○平成27年度 札幌市子どもまちづくりコンテスト福祉局最高賞「実力賞」受賞 ○平成28年度 本校生徒会福祉局「札幌市民憲章実践者」表彰される

実践例の他、平成28年度の3年生の総合のJICA北海道の調査訪問の事前質問で「JICAが掲げるダイナミックな開発というビジョンが気になった」「南北問題の解決方法を知りたい」「開発途上国はどうか先進国と言えるようになるのか」など、極めて質の高い質問ができるようになってきた。驚かされた。また、札幌市手稲区の中学校在9校あり、夏休みに手稲区PTA連合会主催の各校生徒会執行部が集まる「平成28年度生徒会サミット」では生徒自ら「本校はユネスコスクールですから、ボランティア活動や福祉活動に力を入れています。」と発言にも驚かされた。徐々に、ユネスコスクールが息づいてきている。また、課題として、アクトローカリーは進めて行くだろうが、ユネスコスクールの意味がしっかり持続して行けるかが課題である。

